

2010年10月14日

アメリカ合衆国大統領  
バラク・H・オバマ 様

新日本婦人の会  
会長 高田公子  
文京区小石川5-10-20  
電話 03-3814-9141

## 「核兵器のない世界」めざす流れに逆行する 未臨界核実験に強く抗議します

新日本婦人の会は、9月15日にネバダ州の地下核実験場で強行された未臨界核実験に強く抗議します。

5月の核不拡散条約（NPT）再検討会議では、すべての加盟国が核兵器廃絶に向けた「行動計画」にとりくむことを合意する重要な前進の一步を刻み、「核兵器のない世界」は国際政治の明確な目標になっています。

新日本婦人の会は、このNPT会議に向け、知人・友人をはじめ、地域や学校、自治体、世界各地の姉妹都市らとともに「核兵器のない世界」を求める国際署名をよびかけ、日本原水協として約700万人の署名を国連へ提出しました。被爆の実相やその恐ろしさを知る国の女性として、その行動の先頭に立ち、被爆者とともに日々行動を重ねてきました。

昨年4月、オバマ大統領自身が、「核兵器を使用した唯一の国として、行動する道義的責任がある」ことを認め、「核兵器のない世界」のために行動することを宣言しました。今夏には被爆地である広島、長崎両市へ米駐日大使が初めて訪問しています。

このような圧倒的な市民の願いや「核兵器のない世界」めざすNPT会議の合意、そして自らの行動を踏みにじる蛮行を絶対にゆるすことはできません。

私たち新日本婦人の会は、未臨界核実験をふくむすべての核実験を中止するよう強く求めるとともに、NPT「行動計画」の実行と、その具体化・発展のために、オバマ大統領がその役割と責任を果たすことを強く求めます。

最後に、オバマ大統領自身が、広島、長崎を訪れ、被爆者の声に耳を傾け、あの原爆のきのこ雲の下でなにがあったのか、その後どんな苦しみがつづいているのか、核兵器とはどんな兵器であるかを学ぶことを切に求めます。